

審査の結果の要旨

氏 名 何 経

本研究は、1998年以降に中華人民共和国において行なわれた住宅政策における市場開放が、都市空間・社会の形成に与えた影響を、上海市を事例としてとりあげ、分析した研究である。中国ではそれまでの国家による直接的な住宅供給から民間事業者による供給に転換し、そのことが既成市街地における都市再開発や郊外における新規開発を促進し、都市の人口配置や空間変容にも大きな影響を与えた。

本研究では、まず第一章において、中国における住宅政策の変遷過程について、特に1990年以降について概説し、また事例として取り上げる上海市の位置づけを明確にする為に住宅政策、都市政策、都市整備の変遷について整理を行った。その上で、研究の目的をのべ、また本研究の意義を、都市計画・都市開発における実務、政策実行、学術の各視点から述べている。また、研究対象期間、フレーム、方法を整理している。

また、第二章においては、本研究に関連する研究の方法や理論について整理を行っている。特に、開発が及ぼす空間的影響を経済的側面と物的環境的側面、そして都市内での立地の側面について焦点をあてて整理を行っている。

第三章では、第一章で概説した住宅政策改革について、国家レベルと上海市レベルについてより詳細に説明を加えており、特に1998年の住宅政策改革で行なわれた公営住宅供給の停止と民間企業による供給の導入政策に着目し、当該住宅政策改革について、空間や人口配置等に関する影響について検討する視点を整理している。

第四章以降第十章までは、上海市を対象として、住宅政策改革のもたらした空間的影響について検討している。

第四章では、住宅供給の形態・マーケットを、新規住宅販売、中住宅販売、リースの3つのタイプに類型し、1998年に行われた住宅政策改革以降のそれぞれのマーケットの成長を把握した。第五章では、住宅政策の改革後の住宅供給によって、上海市内の人口配置・密度構成がどのように変化したのか検証している。第六章では、住宅のグレード別の供給実態を分析した。そして、これら

の結果の含意について第七章で論述している。

第八章では、住宅のグレード・価格が上海市の中で空間的にどのように変化したのか把握している。第九章では、再開発の影響について、住宅のグレードの変化、密度・人口の変化から整理している。第十章は、4つの開発事例をとりあげ、ケーススタディを行ない、密度や人口の増加、住宅価格の変化といった観点から地区への影響を分析している。

これらの分析結果をふまえて、第十一章では、住宅政策改革による上海市における空間的な変容状況をまとめ、郊外と都心部の2極化の問題を指摘した。また、都市計画や都市成長戦略が、住宅供給をコントロールできていない理由を整理し、住宅価格のコントロール、経済成長、農地の保全、既成市街地の環境改善と行った多様な目標に資するように、住宅開発を誘導する必要性を指摘した。第十二章は、以上から、上海市の都市政策を居住者の所得階層のミックスや平等性の観点から組み立て直すことを提案している。

審査会においては、住宅政策改革が都市空間の形成に与えた影響を明らかにした点が高く評価された。また、分析にやや不十分な点もあるが、統計情報や地理・空間情報、そして開発に関する公的資料が入手しにくい中国において、各種資料を組み合わせ、空間的な変容を明らかにし、中国の大都市政策に有益な示唆を得ている点が評価された。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。